

火事になったあたりのこと

ーカスバムードの残り香を消すー

三月二十九日午後、萩之茶屋一丁目二番三号で火事があつた。こんな町名番地ではわからないと思うが、銀座通りを北に突きぬけて、クラブ化粧品の方へ行くガードの手前、バス道路に面したところだ。このへんのことは、前に「渡世」で書いたことがある。

妙なもの専門の、ちいさくてキタナイが、同時に安くて栄えたつぷりたものを売わせるめし屋が、三軒並んでいた。

そのうち一軒は、一暖めし屋をやめて荷物あずかり所をはじめたのが、いつのまにかめし屋に逆戻りして前のように三軒並んだわけだが、こんどの火事以後、三軒は同じように商売できるだろうか。

益ヶ崎がどどん突って行くのは毎日見ている通りで、何かあじけなくされている。

そんななかで、あのバラツクの三軒のめし屋のあ

たりから、国電新今宮駅のホームの下になつてゐる路地までの一帯は、忘れられたようにひっそりと、昔のような益ヶ崎らしさが保たれていた。

こんど一緒に焼けた角のキッサ店まるまつも、前にはめし屋だった。それが反対角の立ちのみ屋丸松と、キッサ丸松に発展してから五年ぐらになるだろう。キッサの方には、ちよつとシャキシャキした娘がいたのを知ってるヒトも多いはず。

話をすぐ女の方へカーブさせるのはオレのくせだけど、めし屋からキッサに変わったまるまつが、改築でキレイになつた以外、あのあたりはみんな古い家で、特に駅前のホーム下の路地へ入ると、ちっちゃなちっちゃなお好み焼き屋に「吉田御殿ー千姫」なんてカンパンが出てたりして、ほんとにカスバみたいないな一角だった。

もっとも、火事のあとで行ってみたら、その「吉田御殿ー千姫」は消えて、代りにかどうか知らないけど「男のムード」という看板が見られた。

あやしい感じで、何かこり迫られるような気がする看板だ。

あのへん、古い地図で見ると裏地のシルシがついてゐるから、昔はそうだったのだろう。それを国鉄がつ

ぶしたのか、ふくらんできた益ヶ崎がつぶしたのか。

どっちにしても、ずりつとホーム下の路地を西へたどって行けば、またバス通りに出るわけだけど、ヒルマでもシーンとしてゐるあそこのムードには古い益ヶ崎の匂いがある。

火事という一つの事件が、そいり匂いを消す動きのパネになって、やたらと「明るく健全な」、そのくせ「モウケ主義」ばかりの路地にしてしまわないようにと思ふ。

いままでもオレが言ったのは、例ばかりだけど、東側の方も、角の立ちのみ丸松か、並んでホルモンそばの店も二軒あって、シケタとき、はともいいのだから、よな。

あやめい 馬の金さんカンパ

病の肝硬変に苦しみながら、現在八王子の医療刑務所にあり、自分の無実の罪をはらすべくがんばっています。

容疑は強盗殺人。しかし、その犯罪

あとに限られた時間に強力な調査を行っただけです。カンパ！

送り先 東京都港区新橋二一八一一六

石田ビル内、救護連絡センター

渡世編集委でも取り扱います。

昨年一二月四日、駒さんは東京高等裁判所第二刑事部で、控訴審、つまり無期懲役の判決を受け、現在上告中の身にあります。駒さんは一

かんじんの一審の時には、いいかげん